

令和5年度 前期始業式

令和5年度の前期始業式にあたり、皆さんに一つお話をします。

先週、競泳の日本選手権が行われました。その初日の女子100mバタフライで池江璃花子選手が優勝し、6年ぶりの世界選手権の代表に内定した、というニュースが報じられました。

池江選手という、今から4年前の2019年に白血病と診断され、入院中は、自身のツイッターで「思っていたより、数十倍、数百倍、数千倍しんどいです」と闘病生活の苦しさを語っていました。その後、およそ10か月に及ぶ入院生活を経て、2020年8月にレースに復帰し、2021年の東京オリンピックにも出場しました。

長い闘病生活の後、東京オリンピック代表が決まったレースで、池江選手が「自分が勝てるのはずっと先のことだと思っていた。すごくつらくてしんどくても、努力は必ず報われるんだなと思った。今すごく幸せ」と涙ながらに語っていたのが、今でも大変印象に残っています。

その後も、出場したレースの様子などを見たりすることがあり、すごく頑張っているなと思っていましたが、今回、池江選手について報道した記事を読んでいく中で、私は一つ大きなことを見落としていたことに気づかされました。

池江選手はこの4月から社会人となり、大手タイヤメーカーの「横浜ゴム」の所属となったそうです。そう、4年前に白血病と診断された時、池江選手は大学入学直前だったということを私は見落としていました。その後、約1年間入院生活を送ったわけですから、池江選手は、大学生活1年目は単位が全く取れなかったということになります。

池江選手は、白血病の治療からの退院後、レース復帰を目指して練習を続ける中、大学を残り3年間で卒業すると決め、単位取得に向けても努力を続けたそうです。

皆さんが高校を卒業するために必要な単位は74単位ですが、大学は124単位が必要です。池江選手はそれを3年間で、つまり毎年40単位以上を取得するために勉強し、1単位も落とせないという状況の中で3年間、水泳の練習と大学での勉強を続け、この3月に晴れて大学を卒業し、社会人としての一歩を歩みはじめたということです。

世界選手権の代表内定を決めた先週のレース直前のスタート台で、池江選手は、「自分は池江璃花子だ。負けるわけがない」と自らに言い聞かせてレースに臨んだそうです。それは選手としてだけではなく、大学生としても自らの目標達成に向けて懸命にチャレンジし続け、それをやり遂げた池江選手だからこそ、言えたことばだったのではないかと思います。

皆さんの本年度の目標は何でしょうか？その目標達成のためにどのようなチャレンジをしようと思っていますか？

誰でも新たな一歩を踏み出すことは、とても勇気がいることです。しかし、何かを変えたい、新しいことにチャレンジしたいと思った時、勇気を出して新しい一歩を踏み出さない限り、何も変えることはできません。

先生方は皆さんのチャレンジをしっかりサポートしていきます。

困った時は、一人で悩まずにいつでも相談してください。

いろいろなことにチャレンジしていく中で、うまくいかなかったり、失敗したりすることもあるかもしれませんが、しかし、失敗は回り道。行き止まりではありません。

かけがえのない自分自身の未来創生に向けて、失敗を恐れずにチャレンジしていきましょう。